

第1学年 道徳学習指導案

日時 平成29年9月28日(木) 5校時

児童 1年3組 男14名 女21名 計35名

指導者 伊藤 洋美

1 主題名 友達っていいな (B「友情, 信頼」)

2 教材名 「こころはっぴ」 (出典 東京書籍 みんななかよく 1年)

3 主題について

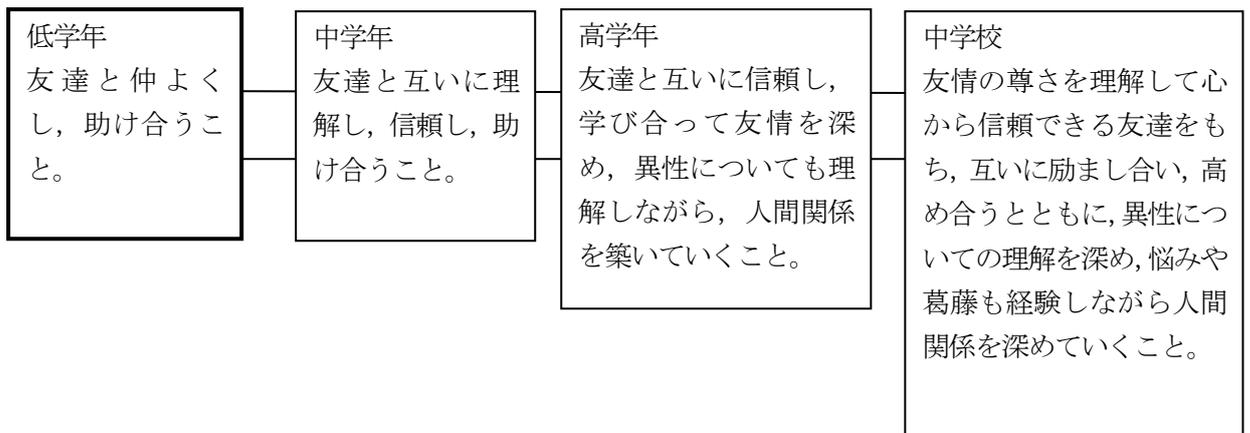
(1) 児童について

本学級の児童は学校生活にも慣れ、元気よく生活している。児童は、複数の保育園や幼稚園から集まって来ており、入学当初は、同じ保育園や幼稚園の友達同士で関わる児童が多かったが、一学期後半からは、新しくできた友達と教え合って学習をしたり、休み時間には一緒に遊んだりするようになってきた。また、学級にはいろいろな友達がいることに気付き、友達が増えた児童が多くなった。しかし、いろいろな友達と関わることに消極的で、遊ぶ友達が固定化していたり声をかけてもらわないと一緒に活動できなかつたりする児童もいる。また、お互いの欠点を指摘し合い、自己中心的な態度をとってしまう児童もいる。2学期になり、自分が遊びたいと思う友達とだけ関わったり、グループをつくって決まった友達とだけ遊んだりしようとする児童が見られるようになってきている。

道徳の授業では、ペア学習で互いの考えを交流したり、動作化を取り入れたりして、自分の考えを進んで発表できるようになってきている。中には、自分の考えを伝えることができない児童もいるが、友達の考えを聞くことにより自分の思いを整理できるようになってきている。

(2) 価値について

第1学年及び第2学年の内容の「B 友情, 信頼」は「友達と仲よくし、助け合うこと。」である。これは、友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。この内容項目は、次のように発展していく。



友達は、家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。また、世代が同じ者同士として、似たような体験や共通の興味や関心を有することから、互いの考え方などを交え、豊かに生きる上での大切な存在として、互いの成長とともにその影響を拡大させていく。

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていくことができるように指導することが大切である。また、異性についても互いに理解し合いながら人間関係を築いていくことが必要である。

(2) 資料について

本資料は、友達を欲しがりのししくんに、うさぎちゃん、たぬきくん、きつねくんの3匹が、「ともだちになって」と声をかける話である。友達ができる喜びや、優しく声をかけられることのうれしさを、みんなの心の声によって色を変える「ころはっぱ」の木の様子を通して考えることができるとともに、新しい友達を得るうれしさに十分に共感しながらねらいに迫ることができる資料である。

(4) 指導にあたって

導入では、入学当初、どのようにして新しい友達ができただかを思い出させ、友達ができたとときの気持ちを想像させて、課題の設定につなげる。

展開では、いのししくんが「ともだちほしいなあ」と言った時と、どっすんどっすん飛び跳ねた時の「ころはっぱ」の色を想像させてワークシートに塗らせ、いのししくんの気持ちを考えさせたい。また、3匹が、いのししくんに声をかけようかどうしようか相談する内容を役割演技させ、すぐに声をかけられなかった3匹の気持ちを考える。そして、飛んでいく「ころはっぱ」を追いかけるみんなの気持ちをワークシートに書かせて自分の考えをもたせ、交流する場面を設定する。

終末では、友達と進んでかかわり、仲よくすることのよさについてこれまでの経験を思い出させながら、これからの生活につなげられるようにまとめていきたい。そして、「ともだちになるために」の歌を聴かせることで、「友達っていいな」を印象付けたい。

本時を通して、相手の気持ちに寄り添いながら進んで友達と関わり、一緒にいる楽しさを十分に味わわせながら、友達と仲よくしようとする心情を育てたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

友達と進んでかかわり、仲よくしようとする心情を育てる。

(2) 研究内容に関わる具体的な手立てについて

【研究内容1】・・・言語活動を充実させる単元構想

- ・「2 (4) 指導にあたって」を参照

【研究内容2】・・・思いをもって伝え合う言語活動

- ・いのししくんの気持ちや3匹の気持ちを想像するためのワークシートの工夫をする。
- ・声をかけようか考える3匹の気持ちやいのししくんのうれしい気持ちを想像するための役割演技を設定する。【言語活動1】
- ・声をかけて、より楽しく過ごすことができるようになった3匹の気持ちに共感させるために、ペアで話し合う場を設定する。

【研究内容3】・・・高まりを自覚させる振り返り

- ・これからの生活で実践していきたいことについて考えをもつことができるような振り返りカードを活用する。

(3) 展開

	学習内容と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 友達と一緒にいるときの色を発表する。 ○友達と一緒にいるときの色はどんな色ですか。そのときどんな気持ちですか。	・うれしい ・楽しい	・事前に友達といるときの気持ちに色を塗らせておく。
5分	2 課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ともだちとなかよくすることについてかんがえよう。</div>		・本時のねらいを明確に話す。
展開	3 「こころはっば」を読み、友達と仲よくすることについて話し合う。 ○いのししくんは、どんな気持ちで「ともだちほしいな」と言ったのでしょうか。この時、こころはっばはどんな心の色になったのでしょうか。	・さみしいな。 ・だれかと遊びたいな。 ・友達がほしいな。 ・悲しい色 ・さみしい色 ・つまらない色	・ワークシートのこころはっばに色を塗り、どんな気持ちかをペアで話し合わせる。 ・何色をぬったかがではなく、いのししくんがどんな気持ちかを中心に考えさせる。
開	◎3匹は顔を見合わせた時にどんな相談をしたと思いますか。	・さみしそうだよ。 ・かわいしそうだよ。 ・友達になってあげようよ。 ・強そうだな。 ・怖いな。	・役割演技によって3匹が声をかけようか止めようか等、どうしようか相談する気持ちを想像させる。 【言語活動1】
30分	○いのししくんが「どっすんどっすん」と飛び跳ねたとき、どんな気持ちだったのでしょうか。この時はっばはどんな心の色に変わったのでしょうか。 ○飛んでいくこころはっばを追いかけながらみんなはどんな気持ちだったでしょう。	・うれしいな。 ・友達ができた。 ・早く遊びたいな。 ・明るい色 ・うれしい色 ・友達がいるって楽しいな。 ・声をかけて良かったな。 ・いのししくんが喜んでくれて私もうれしい。 ・声をかけてくれて、ありがとう。	・飛び跳ねる場面を役割演技で表現し、こころはっばに色を塗り、どんな気持ちかをペアで話し合わせる。 ・どんな色をぬったかではなく最初の気持ちとの変化を考えさせる。 ・ワークシートに考えを書き、ペアで話し合わせ、考えを深める。 ・より楽しく過ごすことができるようになった3匹の声かけにもう一度着目させる。 【言語活動2】

終 末 1 0 分	<p>4 今日の学習について振り返る。</p> <p>○今日の学習をして、友達と一緒にいるときの気持ちの色を塗りましょう。どうして、その色になったのでしょうか。</p> <p>5 「ともだちになるために」の歌を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊ぶと楽しいから。 ・これからも友達と仲よく遊びたいから。 ・一人ぼっちの子を誘うと嬉しいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前に塗ったときの色との違いを発表することにより心情の変化を考えさせる。 ・聴きながら友達のよさを再確認する。
-----------------------	--	---	--

(4) 板書

【挿絵】
たぬきくん きつねくん
うさぎちゃん

【挿絵】
こころはっぱのき

【挿絵】
いのししくん

どっすんどっすん

ともだちになって

いっしょにあそぼう

ともだちがいてるといいな

ともだちがいてるってたのしいな。
こえをかけてよかったな。
みんなとあそぶとたのしいね。
こえをかけてくれて、ありがとう。

さみしきな。
だれかとあそびたいな。
ともだちがほしいな。
つまらないな。

さみしそうだよ。
かわいそうだよ。
ともだちになってあげようよ。
こわいな。

おおきいな。
なんだかつよそうだ

ともだちほしいな

ともだちとなかよくすることについてかんがえよう。

こころはっぱ